

マスコミ

マス・コミュニケーション、福澤の生き様を描きつつ、ジャーナリズム彼のメディア経営の歩みとなどの関係書は、今日の意味合いを再考すおおよそ一年間に百点ほど出版されている。第2次大戦中米田村紀雄編『芙蓉書房出版』の収容所で発行された『ボストン収容所の地下新聞』(田村紀雄編、芙蓉書房出版)のように、原紙の複製版といった史資料からアカデミックな研究書、ジャーナリストやメディア人を語る評伝、メディア論となる

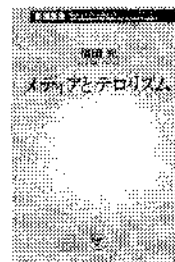


社は『時事新報』創刊者、ニケーシオン、彼のメディア経営の歩みと今日の意味合いを再考すおおよそ一年間に百点ほど出版されている。第2次大戦中米田村紀雄編『芙蓉書房出版』の収容所で発行された『ボストン収容所の地下新聞』(田村紀雄編、芙蓉書房出版)のように、原紙の複製版といった史資料からアカデミックな研究書、ジャーナリストやメディア人を語る評伝、メディア論となる

岐路に立つマス・メディア

関係書は一年間に約百点ほど出版

鈴木 雄 雅



「坂の上の雲」がNHKで、奥村宏『徹底検証 ドラマ化されている。片山 隆『日露戦争と新聞』(講談社選書メチエ)は明治「新聞がいちばん面白かった時代」ではあったに、わらわすマスコミ批判の書が

「坂の上の雲」がNHKで、奥村宏『徹底検証 ドラマ化されている。片山 隆『日露戦争と新聞』(講談社選書メチエ)は明治「新聞がいちばん面白かった時代」ではあったに、わらわすマスコミ批判の書が

「坂の上の雲」がNHKで、奥村宏『徹底検証 ドラマ化されている。片山 隆『日露戦争と新聞』(講談社選書メチエ)は明治「新聞がいちばん面白かった時代」ではあったに、わらわすマスコミ批判の書が

相哲『朝鮮における日本人 経営新聞の歴史(一八八一—一九四五)』(角川学芸出版)は中国出身の著者の実証的研究であるが、前作『満州における日本人経営新聞の歴史』(二〇〇〇年、朝風社)に続く力作であり、「あのままの事実を綴る」という原点到立つ貴重な書である。

と、ジャーナリズムを骨子とするもの、特定のメディア機能やその周辺に特化したものなど、送り手論、受け手論、社会・文化論など多種多彩である。

鈴木敏隆『新聞人 福澤諭吉に学ぶ「現代」に生きる「時事新報」』(産経新聞)

先月から司馬遼太郎原作

とワゴンと報道』(幻冬舎新

が豊かな古賀純一郎『メデ

が豊かな古賀純一郎『メデ

他方、福田充『メディアとテロリズム』(新潮新書)が指摘するように、テロとの共生関係、テロリスト側に利用されている現代メディアの弱点も見え隠れする。また出河雅彦『ルポ 医療事故』(朝日新書)が提起した医療ジャーナリズムの現場で起きている事実への解決策はあるのだろうか。

ジャーナリズムの原点に立ち返るとき、もし人材教育がそのひとつの解決策というならば、新聞を読み、批判できる読者を増やし、その中から新しい新聞人を育てるといって、柳澤伸司『新聞学専攻』

「新聞教育の原点」幕末・明治から古賀純一郎のジャーナリズムと教育(世界思想社)のような視点をもつことに注目すべきだ

最後に、ミネルヴァ書房が企画した「叢書現代のメディアとジャーナリズム」全8巻のうち、『メディア

研究とジャーナリズム 21世紀の課題』(第8巻)『放送と通信のジャーナリズム』(第7巻)が刊行された。残すところは『大衆文化とメディア』(第4巻)